

幼児期からの学びの架け橋を 小学校教育へつなげよう

国立大学法人お茶の水女子大学
アカデミック・プロダクション特任教授
宮里暁美

プログラム

1. 幼保小の架け橋プログラムについて
2. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について
3. 新しい時代と社会に開かれた教育課程
4. 「センス・オブ・ワンダー」より 見つけ出した知識のこと
5. 保育の中で大切に思い続けていること
6. 情報をいくつか

1 幼保小の架け橋 プログラムについて



学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働によるかけ橋期の教育の充実～

令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育のかけ橋特別委員会

(参考資料) 幼保小のかけ橋プログラムの実施に向けての手引き及び参考資料(初版) (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm)

- ・ 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、全ての子供に等しく機会を与えて育成していくことが必要。
- ・ 幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。
- ・ 一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、5歳児から小学校1年生の2年間を「かけ橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「かけ橋期」の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要。
- ・ 架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働することが必要。
- ・ 教育行政を所掌する文部科学省は、こども家庭庁をはじめとする関係省庁と連携を図りながら、家庭や地域の状況にかかわらず、全ての子供が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及びかけ橋期の教育の質を保障していくことが必要。

これらを踏まえ、以下の方策を推進

1. 架け橋期の教育の充実

幼児教育施設と小学校は、3要領・指針^{*}及び小学校学習指導要領に基づき、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要。 ※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

① 子供の発達の段階を見通したかけ橋期の教育の充実 幼 小

- ・ 幼児教育と小学校教育では、各教科等の区別の有無や内容・時間の設定など様々な違いを有することから、幼保小が意識的に協働して「かけ橋期」の教育を充実
- ・ 幼児教育施設においては、小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」等に向けた資質・能力を育み、小学校においては、幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施。特に、小学校の入学当初においては、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期であり、幼児期に育まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続するよう教育活動を実施

② 架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立 幼 小

- ・ 幼保小が協働して、3要領・指針において幼児期の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を手掛かりとしながら、かけ橋期のカリキュラム^{*}を作成。小学校1年生の修了時期を中心に共に振り返って、かけ橋期の教育目標や日々の教育活動を評価し、幼保小それぞれの教育を充実

※幼保小が協働して、期待する子供像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの

- ・ 幼保小の合同会議等を定期的に開催するなど、幼児教育施設と小学校の継続的な対話を確保、コミュニティ・スクール等を活用し、保護者や地域住民の参画を得る仕組みづくり

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの 参考資料（初版）

**「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、
幼保小の先生が一緒に子供の姿から話し合おう**

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料（初版）の位置づけ

- 「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」（初版）においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとしながら、架け橋期のカリキュラムを策定できるよう工夫することとしている。
- 本参考資料（初版）は、幼保小の先生方が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解のもとに、子供の姿を中心に据えて話し合うことができるよう作成したものである。

※取組の状況等を踏まえ、手引き（初版）とともに、本参考資料（初版）の更なる改善・充実を図る。

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料（初版）の 目次

1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え方の例

活動の中での具体的な幼児の姿について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える例を示している。

2. 事例を通して考えてみる

園と小学校の先生が協議をし互いに理解を深めていくうえでの手掛かりとなるような具体的な事例を示している。

- ・記録を基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解を深める
- ・幼児と児童の交流
- ・生活科を中心としたスタートカリキュラム
- ・生活科 アサガオ栽培
- ・国語科(4月)
- ・算数科（4月）
- ・音楽科（5月）
- ・图画工作科（4月）
- ・体育科（5月）
- ・要録を作成し、小学校教育へつなげる
- ・園小連携による障害のある幼児への切れ目ない支援
- ・ICT機器を活用した幼児の豊かな体験

3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と先生の関わり・環境の構成や小学校へのつながり

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、先生の関わりや環境の構成の改善・充実、幼児期に育まれた力が小学校教育にどのようにつながっていくのかのイメージの共有の手掛かりとして活用できるよう、整理して示している。

4. 幼児教育アドバイザーの配置等の主な成果

自治体における幼児教育アドバイザーを活用した取組例とその成果の例を紹介している。

1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え方の例

自らの興味や関心に応じて、思うがままに環境と関わる中で、様々な体験を積み重ねていく。その具体的な姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える。

活動の中での具体的な幼児の姿を通して、幼保小の先生方が話し合うことが大切である。ここでは、幼児が自分達で考えたお店屋さんごっこ（クレープ屋さんの場合）を例に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉えてみる。

健康な心と体

明日、クレープ屋さんをやりたいと思って、お店に必要な小道具を考えて準備する

自立心

自分達で考えたお店作りが、自分達の力で実現できた達成感、友達が喜ぶ充実感を味わう

協同性

実現したいお店のイメージを友達と共有し、役割分担したり協力したりしながらごっこ遊びを展開する

道徳性・規範意識の芽生え

やりたいことが友達と異なる時には、折り合いをつけながらきまりをつくる

社会生活との関わり

楽しかった地域のお祭りの経験を友達と共にし、かっこよかったです（クレープ屋さんを再現してみたいと考える）



興味や関心に応じて遊びに没頭する
10の姿が絡み合って現れてくる

楽しい
一緒にやりたい
本物らしくしたい

〔今後体験してほしい〕
共通の目的の実現に向けて協力したり、時には互いの思いがぶつかり合う中で、相手の立場になって考えたり、互いが納得できる代案を考えたりしてほしい。

〔過去の体験〕
絵を描いた時に、カラフルに色を塗って楽しんでいたので、また、カラフルにしたいと思ったのかな。

思考力の芽生え

ふさわしい材料を考えてクレープに見立て、より本物らしい見え方を試行錯誤する

自然への関わり・生命尊重

クレープを持って園庭や公園へピクニックに出かけ、花を愛でたり風の気持ちよさを感じたりする

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

生活の中にある文字や数字を使ってみると、お店が本物らしくなり楽しくなることを知る

言葉による伝え合い

興味を持った出店について友達と意見交換し、自分の思いが伝わる表現を工夫したりしながら話し合う

豊かな感性と表現

クレープ生地に具材を置くときに、カラフルできれいに見えるようにするなど、自分なりの表現を楽しむ

1. 「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」の捉え方の例

「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」として、どのような姿が見られるのか、実際の保育の場面を取り上げて語り合うことが大切である。

こうじゃない？…え？こう？！



1学期から続々ヒーローごっこ。園内パトロールをしたり、困ったことを解決したり、だんだん本格的にヒーローになりきって遊ぶようになってくると、パンや剣などのアイテムもこだわって作るようになります！年長組が作るような花火を2つ繋げた（突き通し）かっこいい剣を作りたい！突き通すためには、短い花火どうやって穴を開ければいいんだろう…？ハサミを持って穴を開けておキョキカットも穴が大きすぎたり、切れてしまったり…「あ～もう、うまいかなないへ」の練り返し…。



「ここからだらいいんじゃない？」もっとこうしたらいかも
「え？ここ？」ヒアイディアを出し合い、友達と一緒に試行錯誤の連続。「いやも！」」「ほんとだ！」「おお～～～！」「できた！」ひらめいた！気が付いた！見つけた！

こうして工夫を重ねながら作り上げる自慢のアイテム。
見てくださいこのホーネー！この過程がつまっているからこそこの最高の表情となりぎり感♪

試行錯誤の時は沢山悩んで考えたいけれど、だからこそ良い方法を自分たちで見つけ出した時の喜び、嬉しさ、達成感は大きいのだと思います。
子どもの力を信じて見守る、そんな援助を心掛けていきたいと思います!!



「指導と評価に生かす記録(令和3年10月)」3章2.(6)事例2の学級だより

どんな姿が見られるか幼保小の先生たちで一緒に考えてみましょう。

※子供の姿を語り合うプロセスを積み重ねることが大切です。

○ _____。

○ _____。

○ _____。

○ _____。

○ _____。

-
-
-

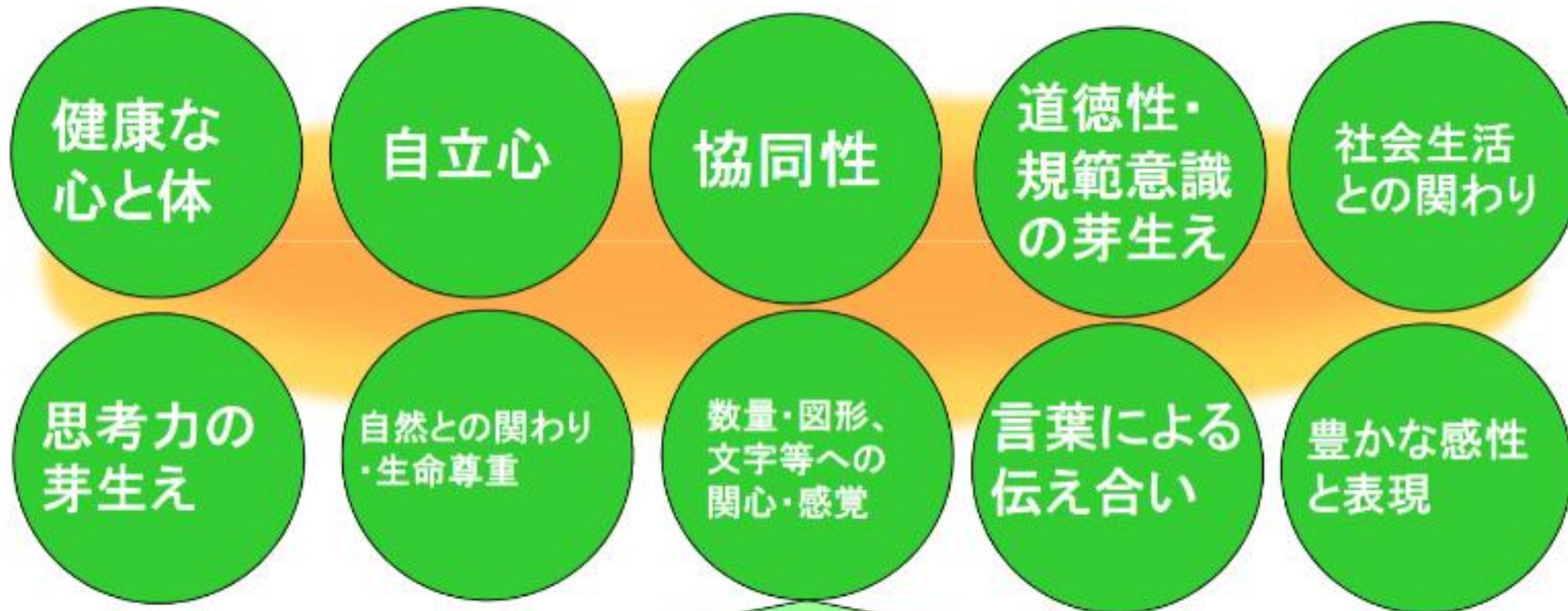
※様々な場面での保育や授業における子供の写真や動画を用いて、幼保小の先生方で話し合うことが大切。

2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について

日々子どもと過ごす中で、「これ！」という姿を見つけて、その姿から語ることが、実践者の語りだろう。

姿を語ることができるのは、保育が見えているときだろう。

「10の姿」に着目する、重要な意味がそこにある。



幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性の芽生え

規範意識の芽生え

いろいろな人とのかかわり

思考力の芽生え

自然とのかかわり

生命尊重・公共心等

数量・図形・文字等への
関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

〔※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。〕

保育現場に求められていること

幼児期の発達の段階を踏まえれば、**幼児期の教育において、学年ごとに到達すべき目標を一律に設定することは適切とはいえない**が、各幼稚園、保育所、認定こども園においては、**幼児の発達や学びの個人差に留意しつつ、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿を具体的にイメージして、日々の教育を行っていく必要がある。**

各小学校においては、各幼稚園、保育所、認定こども園と**情報を共有し、幼児期の終わりの姿を理解した上で、幼小接続の具体的な取組を進めていくことが求められる。**

各小学校においては、各幼稚園、保育所、認定こども園と情報を共有し、幼児期の終わりの姿を理解した上で、幼小接続の具体的な取組を進めていくことが求められる。

各幼稚園、保育所、認定こども園においては、以下の例を参考にしながら、幼児の発達等の状況を踏まえて、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿をイメージしつつ、豊かな教育活動が展開されるよう工夫してほしい。

文部科学省HPより



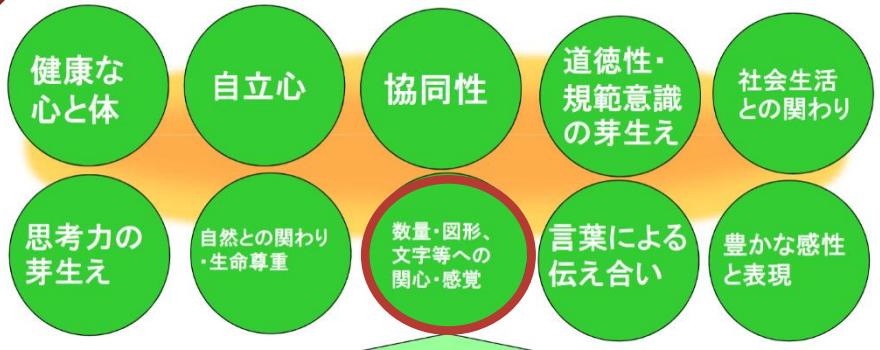
★ 考えたことを 自分の言葉で話す時間

- 言葉を通して先生や友達と心を通わせる。
- 絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる。



★ こうしたらこうなった！ を見つける生活

- 身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わる。
- 物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりするなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。



書きたい私・書きたい思い

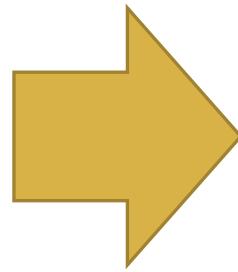
遊びや生活の中で、数量などに親しむ経験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。



ドッジボールをめぐる やり取り

- 協同性
友達との関わりを通じて、互いの思いや考えなどを共有し、実現に向けて、工夫したり、協力したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。
- 道徳性・規範意識の芽生え
よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分かり守るようになる。

- 夢中になって遊ぶ
- 本気と本気がぶつかる
- うれしいことと、いやなことの両方
を体験する
- どうしようか、と考え合うゆっくりと
した時間がある
- 誰もが大切にされていると感じら
れる



自分も大事
仲間も大事
両方大切にする
子どもになる

3 新しい時代と 社会に開かれた 教育課程

将来の変化を予測することが困難な時代を前に、子供たちには、現在と未来に向けて、自らの人生をどのように拓いていくことが求められているのか。

また、自らの生涯を生き抜く力を培っていくことが問われる中、新しい時代を生きる子供たちに、学校教育は何を準備しなければならないのか。

※1

2030年には、少子高齢化が更に進行し、65歳以上の割合は総人口の3割に達する一方、生産年齢人口は総人口の約58%にまで減少すると見込まれている。同年には、世界のGDPに占める日本の割合は、現在の5.8%から3.4%にまで低下するとの予測もあり、日本の国際的な存在感の低下も懸念されている

グローバル化や情報化が進展する社会の中では、多様な主体が速いスピードで相互に影響し合い、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝播し、先を見通すことがますます難しくなってきている。

子どもたちが将来就くことになる職業の在り方についても、技術革新等の影響により大きく変化することになると予測されている。子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就くとの予測や、今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高いなどの予測がある。

2045年には人工知能が人類を越える「シンギュラリティ」に到達するという指摘もある。このような中で、グローバル化、情報化、技術革新等といった変化は、どのようなキャリアを選択するかにかかわらず、全ての子どもたちの生き方に影響するものであるという認識に立った検討が必要である。

新たな学校文化の形成

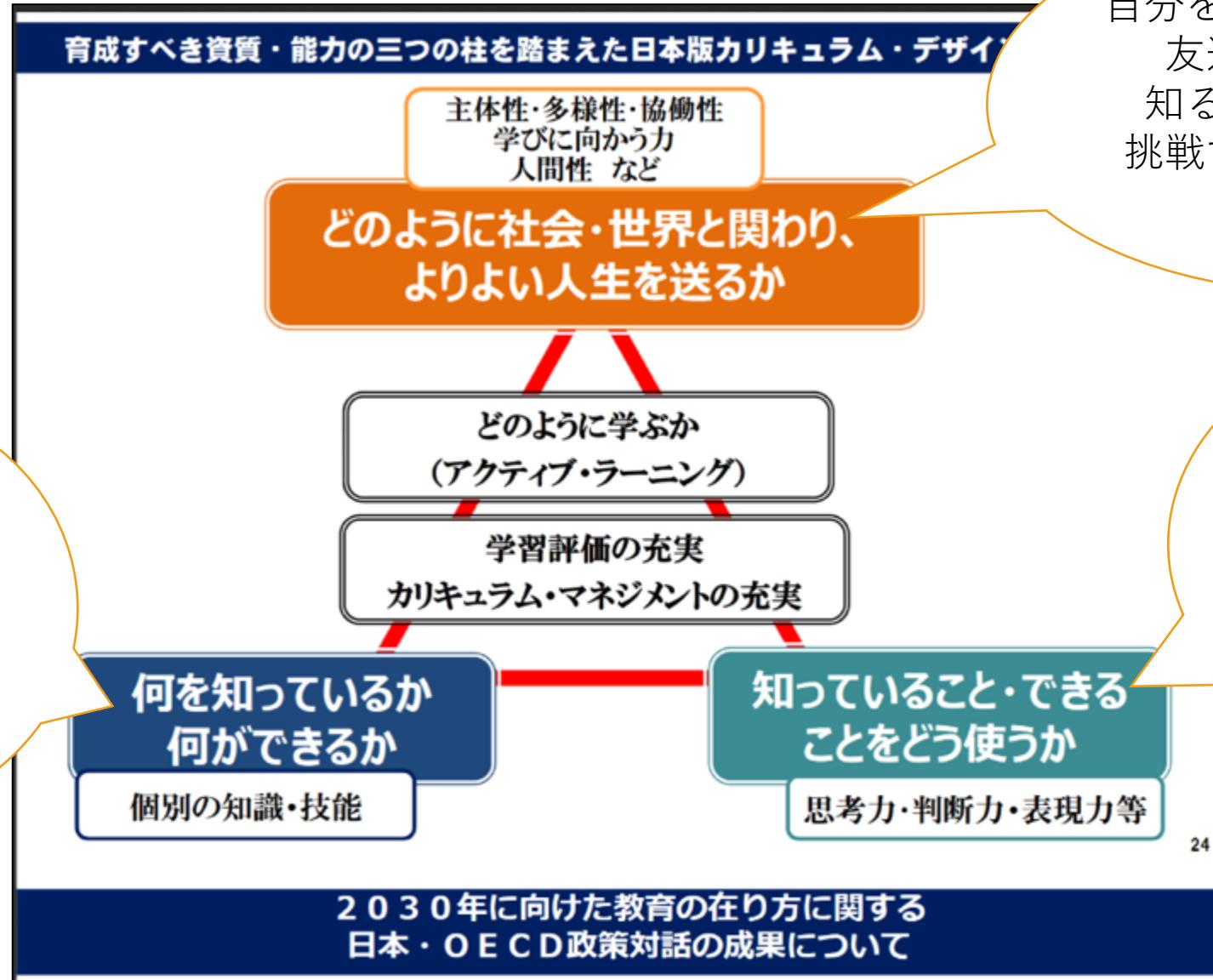
- ・我が国の近代学校制度は、明治期に公布された学制に始まり、およそ70年を経て、昭和22年には現代学校制度の根幹を定める学校教育法が制定された。
- ・今まで、それから更に70年が経とうとしている。この140年間、我が国の教育は大きな成果を上げ、蓄積を積み上げてきた。この節目の時期に、これまでの蓄積を踏まえ評価しつつ、新しい時代にふさわしい学校の在り方を求め、新たな学校文化を形成していく必要がある。
- ・予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に發揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。

そのためには、教育を通じて、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分である。

これからの中学生には、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

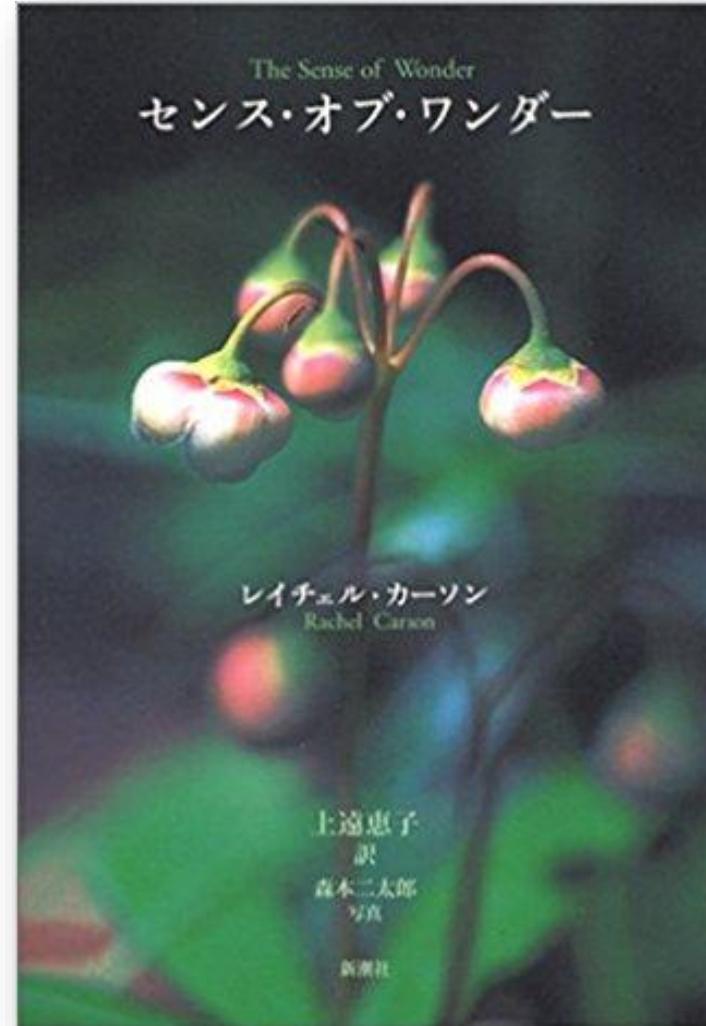
学校の場においては、子供たち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことや、そのために求められる学校の在り方を不斷に探究する文化を形成していくことが、より一層重要になる。

育成すべき資質・能力 三つの柱



4 「センス・オブ・ワンダー」より

見つけ出した知識のこと



子どもたちに過ごしてほしい時間・体験について 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソンより

子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。

残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまえに、澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直観力をぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

もしもわたしが、すべての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー=神秘さや不思議さに目を見はる感性」を授けてほしいとたのむでしよう。

この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅、わたしたちが自然という力の源泉から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤になるのです。

妖精の力にたよらないで、生まれつきそなわっている子どもの「センス・オブ・ワンダー」をいつも新鮮にたもちつづけるためには、わたしたちが住んでいる世界のよろこび、感激、神秘を子どもといっしょに再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいる必要があります。

多くの親たちは、熱心で繊細な子どもの好奇心にふれるたびに、さまざまな生きものたちが住む複雑な自然界について自分がなにも知らないことに気がつき、しばしば、どうしてよいのかわからなくなります。

そして「自分の子どもに自然のことを教えるなんて、どうしたらできるというのでしょうか。わたしは、そこにいる鳥の名前すら知らないのに！」と嘆きの声をあげるのであります。

わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

子どもたちがである事実の
ひとつひとつが、やがて知
識や知恵を生み出す種子だ
としたら、さまざまな情緒や
ゆたかな感受性は、この種
子をはぐくむ肥沃な土壤で
す。幼い子ども時代は、この
土壤を耕すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、
新しいものや未知なものにふれた
ときの感激、思いやり、憐れみ、贊
嘆や愛情などのさまざまな形の感
情がひとたびよびさまされると、次
はその対象となるものについて、
もっとよく知りたいと思うようになります。
そのようにして見つけだした知
識は、しっかりと身につきます。

5 保育の中で 大切に思い続けて いること

幼児期の教育の役割

幼児期は、周囲の大人からの愛情ある関わりの中で「守られている」という安心感に支えられ、自発的な活動としての遊びを通じて生涯にわたる人格形成の基礎を築いていく時期である。

幼児教育は、教育・保育施設をはじめ、家庭、地域等、様々な場で行われるものであり幼児の心身の調和のとれた発達を促すことが重要である。

教育・保育施設における幼児教育は「環境を通して行う」ことが基本であり、幼児が自ら積極的に、人やもの、自然現象などの環境に関わり、体験を重ねることで、生きる力の基礎がはぐくまれるよう、計画的に環境を構成することが大切である。

子どもは「自ら」育つ

子どもは、生まれたその時
から、主体的な存在。
誕生のその時に「産声をあ
げる」ように。

子どもの傍にいて、子ども
は「自ら」育つ、といふこ
とを繰り返し実感している。

見て触れて、遊んで感じる！

子どもは感じている。
遠くでさえずる鳥の声。
風の音。
カーテンが揺れるそのリズム。
光のきらめき。

子どもは感じている。
手を伸ばし、触れて、遊んで。

子どもは「探究」する

「あれは何？」

「どうなっているの？」

小さな「？」が、子どもの心を
揺さぶって、様々な取り組みに
つながっていく。

ゆっくり取り組める時間と場所
と仲間がいれば、探究は深まつ
ていく。

子どもは没頭する

勢いよく回るコマに見入る。
じっと見ている。
そっと指を近づける。

床に耳をつければ、
コマが回る音がする。

繰り返し 繰り返し
引き込まれるようにして
時間が過ぎていく。

子どもは「今」を生きている

「たんぽぽゼリーを作りたい」
一人の子の願いがみんなの願い
になって始まったゼリー作り。
たくさんたんぽぽを集めて
グツグツにていたら
「あ、たんぽぽ色になった！」

一人の夢がみんなの夢になって
実現した瞬間！

6 情報をいくつか

- 耳をすまして目をこらす～いろいろと子どものきもち～ 宮里暁美著 赤ちゃんとママ社
- 「今、この子は何を感じている？」0歳児の育ちを支える視点 宮里暁美編著 ひかりのくに
- ふしぎはっけん!たんきゅうブック かがく編・アート編 宮里暁美監修 文理
- 園外・まち保育が最高に面白くなる本 宮里暁美著 風鳴社
- お茶の水女子大学こども園の春・夏・秋・冬 子どもも大人もワクワクする保育の提案 宮里暁美監修 小学館
- 「やりたい」を引き出す！ 宮里先生の子どもが伸びる育児のレシピ 宮里暁美著 講談社

妊娠・出産

保育園・幼稚園

働き方

教育・学校

くらし

支援

TOP > 宮里暁美の子育て相談



"宮里暁美の子育て相談"の記事一覧



自分で着替えてくれない3歳の娘 着替えが上手になるコツは？〈宮里暁美の子育て相談〉

2024/04/16(火)

0

宮里暁美の子育て相談 # くらし # 親子関係 # 3~5歳



緑色の野菜を嫌がる1歳の娘 無理やり食べさせるべき？〈宮里暁美の子育て相談〉

2024/03/19(火)

0

子育て相談 # 宮里暁美の子育て相談 # 食育 # くらし # 1~2歳 # 3~5歳



「妻がスマホを触りながら2歳娘の相手…やめてほしい」ならパパがお子さんに付き合って〈宮里暁美の子育て相談〉

2024/02/20(火)

0

子育て相談 # 宮里暁美の子育て相談 # 夫婦関係・祖父母 # 親子関係 # スマホ・ネット・SNS

宮里暁美の子育て相談

毎月 1 回

東京新聞朝刊に

「子育て相談」の記事を書いています。

子育て中の若いお母さん、お父さんからの率直な質問に答えています。

東京新聞の「東京すくすく」というページで読むことができます。

左がバックナンバーです。興味があるものをお読みいただけたら嬉しいです。

